

2021年10月1日

学校関係者評価報告書

学校法人 葛谷学園
中和医療専門学校

自己点検・自己評価実施委員が作成した「2020年度自己評価表」を基に学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員会

学外委員（五十音順）

伊藤 秀雄 氏（クローバー治療院グループ代表 本校卒業生）
小川 稔 氏（小川鍼灸院院長 本校卒業生）
深井 伸江 氏（保護者）
藤川 和秀 氏（愛知県柔道整復師会副会長）
村田 守宏 氏（むらた鍼灸院院長 本校卒業生）
諸岡 恵 氏（保護者）

学内委員

楠本 高紀（中和医療専門学校校長）
清水 洋二（あはき関係科学科長・校務主任兼任）
葛谷 壽彦（柔道整復科学科長）
清川 朝栄（あはき関係科臨床実習施設長）
戸崎 素成（柔道整復科臨床実習施設長）
二村 浩之（あはき関係科校務主任補佐）
太田 康晴（柔道整復科校務主任）
森 輝久（中和医療専門学校事務局長）
吉野 真二（中和医療専門学校事務局職員）
平野 良彦（中和医療専門学校事務局職員）

2. 学校関係者評価委員会会議

第1回 2021年6月27日 14:00から16:10
第2回 2021年8月 1日 14:00から16:15
場所：各回とも3号館会議室

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

分類	コメント（意見・評価・回答）
基準 1	<p>(1) 専門職を目指す学生に、学校の教育理念、目標がしっかり伝わっていると感じます。</p> <p>【回答】 ありがとうございます。今後も引き続き活動してまいります。</p> <p>(2) 三つのポリシーを具現化するとありますが、それぞれどのような計画、進め方をするのか教示して下さい。</p> <p>【回答】 アドミッションポリシーについては、学生募集要項に明記し受験生に対し明示している。AO 入試利用の合格者に対し入学前に事前スクーリングを実施し課題の提出や臨床実習の見学を通し在学中、卒業後のイメージを持てるようにしている。 カリキュラムポリシーについては、知識・技能・態度の習得のために外部の意見も取り入れた会議を行っている。常勤・非常勤などで浸透に差があるように感じるので共有を深めていきたい。 ディプロマポリシーについては、国家試験の合格率を上げていかないといけないと感じている。業界に求められるニーズも踏まえつつ進めていきたいと考えている。</p> <p>(3) 1-1-2 イ) 打合せを定期的にとは、どのくらいの頻度でしょうか？</p> <p>【回答】 年2回、4月と12月に常勤と非常勤教員が一堂に会し行っている。</p> <p>(4) 理念の共有化の現状は？</p> <p>【回答】 理念については個々で浸透に差があると思う。あいさつについては、全体でいうとまだまだである。あいさつができる学生とできない学生ははっきりと分かれているように見受けられる。粘り強く取り組んでいきたい。</p> <p>(5) 「あいさつ運動」その後。</p> <p>【回答】 あいさつは結果がすぐに出ないと思うが、あいさつのできるできないは人格形成や卒業後の活躍に影響があると思うので長い目でみて続けてほしいと思います。</p>
	<p>(1) しっかりした運営方針に基づいて、学園役員、教職員との話し合いの場があり、</p>

<p>基準 2</p>	<p>柔軟に対応して下さり、安心感があります。</p> <p>入学者が減少傾向にある中、学内でも多くの課題・問題点があると思いますが、頑張ってください。</p> <p>【回答】 コロナの影響もあり調整が必要であるが引き続き適正に運営していく。</p> <p>(2) (大項目総括) 個別の ID・パスワードは、どれくらいの頻度で変更していますか？</p> <p>【回答】 総務省の指針に沿ってパスワードを取り扱っている。</p> <p>(3) 一般の教職員と学園役員の考えが一致するかどうかを学校運営懇談会等で話し合うとありますが、主任級未満の職員へ考えを聞き取りするのでしょうか？</p> <p>【回答】 日常の業務で主任級とのコミュニケーションは取れているという事で聞き取りはしていない。ただし重要案件については全体会議の実施もしている。</p> <p>(4) 来年度新規採用（6名）は、欠員が生じた為か？ 他の理由があるのか？ 新規採用倍率は？</p> <p>【回答】 常勤職員については欠員補充で倍率は 2 倍。非常勤教員については常勤の負担軽減の為採用増で倍率は 1 倍、実習助手と附属治療所職員については、卒後教育の一環という事で有期採用となっている。倍率は実習助手 1 倍、附属治療所職員 2 倍。</p>
<p>基準 3 本科 ・ 専科</p>	<p>(1) コロナ禍で実習教育が難しい面もあると思いますが、技術面の修得に遅れが生じないことを望みます。</p> <p>【回答】 実技に関してはやはりオンラインだけでは限界がある。幸いほぼ対面授業でできているが、今後も状況によりオンラインをせざるを得ないこともあると考えられるのが、遅れないように努めていく。</p> <p>(2) 今後、オンラインでの講義はどれくらい増加するのか？（全ての科に共通）</p> <p>【回答】 県や文科省、厚労省の要綱では基本的に対面授業が求められていることから、対面授業が基本になる。ただし緊急時に一定期間オンラインを行うという事はありうる。</p> <p>(3) 「遠隔授業を実施できる体制は整えられている」ということだが、その内容について教えて頂きたい。昨年の課題は改善されたということからか？</p> <p>【回答】</p>

	<p>昨年当初は全くオンライン授業という想定が無かったが、マニュアル作成から非常勤講師へのレクチャーまで実施済みで、すべての講師が最低一回はオンライン授業を行った。</p> <p>(4) 遠隔授業を講師個人の自宅から行った実績はあるのか。</p> <p>【回答】 講師自宅にオンライン環境が整っていないというケースもありホストは学校で行うことを基本としている。個人にとってハードルが低い方を選んでもらえるようにしている。本科専科では事例がないが、柔整科の遠方の講師は自宅からのオンライン授業の実績はある。</p>
<p>基準 3 柔整科</p>	<p>(1) コロナ禍で実習教育が難しい面もあると思いますが、技術面の修得に遅れが生じないことを望みます。</p> <p>【回答】 感染防止対策を徹底し、しっかりと対応していく。</p> <p>(2) 教育の目標、方法等あると思いますが、国家試験合格が必須ですので、十分な取り組みを願います。</p> <p>【回答】 学力不安の学生には補講や個別指導を実施している。やり方を見直しながら学生にあった方法が取れるようにしている。</p>
<p>基準 4</p>	<p>(1) 就職率の向上と国家試験の全員合格を目指す上で学生1人1人の学修意欲を把握し、勉強法のご指導をお願いしたい。</p> <p>【回答】 学生の年齢層が幅広く、集団より個人指導のほうが効果が感じやすくなっている。新入生には既に個別で面談を実施し学生の特徴を把握したところである。</p> <p>(2) DO（ドロップアウト＝退学）の数を減らす事。</p> <p>【回答】 コロナ禍であったが前年度よりも数は減少している。個別での面談などが一定の効果があつたのではないかと考える。その他の質問でも退学について受けているので全校の傾向等あわせて回答する。</p> <p>(3) 令和2年度、コロナ禍での就職状況に変化はなかったか？</p> <p>【回答】 3月～5月は寄せられる求人票が激減していたが、その後回復していった。年間では前</p>

	<p>年比 1~2 割減。就職活動を始めるタイミングが遅れていたが、最終的には例年とほぼ同じ就職状況になった。</p>
<p>基準 5</p>	<p>(1) 就職活動については、1年生から企業説明会に参加することが出来て、教職員が個別で相談にあたって下さり、学納金の面でも奨学金、学資ローンなどの支援体制が充実していると感じます。</p> <p>【回答】 今年度もコロナの影響があり資料展示がメインの企業説明展を実施した。できる限り学生の力になっていきたい。</p> <p>(2) 現場の状況を多方面で察知し、学生に教示してほしい。</p> <p>【回答】 いわゆるブラック企業と呼ばれるような労働条件にならないようにできる限り情報を集めている。具体的には次の3点に気を付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多すぎる報酬や過剰な表現をする企業に注意すること ・短期間に急拡大した企業 ・教員や卒業生から聞く情報 <p>(3) 自宅学習支援として学生1人2万円を全学生に、これは、中和独自の支援ですか？</p> <p>【回答】 学校独自の支援である。</p> <p>(4) コロナによる学生の精神的な影響はみられないか？</p> <p>【回答】 退学者は前年度よりも減少であった。退学理由も直接コロナが原因のものはなかった。個別面談や、オンライン授業の準備などで個別に密にコミュニケーションを図ったことが功を奏したのかもしれない。3年生については国試を控え不安の声は多くあった。コロナ陽性になると試験が受けられない（追試がない）ということもあり、不要な感染リスクをさけるため直前の登校を控えさせたことにより従来より追い込みができなかった。また、質問などは随時オンラインで受け付ける体制を整えたが、利用者は限定的であった。</p>
<p>基準 6 本科</p>	<p>(1) 施設・設備は、必要性に十分対応出来ていると思います。</p> <p>【回答】 今後も必要に応じ対応していきたい。</p> <p>(2) 附属治療所でのコロナ対策。昨年との改善点及び発熱患者による予約取消者、濃</p>

<p>専 科</p>	<p>・ 厚接触者などが見えれば、その数と対応について教えて頂きたい。</p> <p>【回答】</p> <p>4、5月は休校の為、治療所も閉鎖していた。基本方針は3密回避という事で患者様を受け入れるベッド数を半分にし、窓を開け換気を徹底した。また、接触することは避けられないので消毒を徹底し、手袋やタオルを利用しリスク軽減に努めた。患者様の中に感染者および濃厚接触者はいなかった。今年度はサーキュレーターを追加し引き続きできることから対策を進めていきたい。</p>
<p>基 準 柔 整 科</p>	<p>(1) 施設・設備は、必要性に十分対応出来ていると思います。</p> <p>【回答】</p> <p>6 今後も引き続き整備していく。</p> <p>(2) 専門書等多くの蔵書があるが、学生が利用しているか、又、どの分野の利用書が多いのか調べて、学生の弱い点、興味のある物を知る事も大事と思う。</p> <p>図書室（あ、はり、きゅう科共通）の蔵書が1年間に2000冊も増えたのは素晴らしいことと思う。何かきっかけがあったのか。書物の種類、学生の意見は反映されているか。</p> <p>医学書は高価なものが多いので学校で閲覧できるというのは非常に助かる。</p> <p>【回答】</p> <p>昨年度はコロナ対策の一環で図書館を開放していないが、例年では解剖・生理学のジャンルの書籍が多く利用されている。学生個人の要望の聞き取りはできていないが、学生全体の傾向としては1、2年生では基礎医学、専門分野の需要が高く、3年生では国試対策向けの書籍が需要が高い。蔵書の増加分に関しては、前年度記載の冊数が古いデータの数字であったため1年間で2000冊増えたように見えてしまったが、実際には10年ほどかけて現在の数字となっている。1年あたりの平均増加数は150~200冊である。</p>
<p>基 準 7</p>	<p>(1) オープンキャンパスの開催時も検温。消毒などのコロナ感染防止対策を行い、WEBを活用した対応など、工夫されていると思います。</p> <p>【回答】</p> <p>今後もコロナの影響もあるだろうが適正に運営していく。</p> <p>(2) ホームページやオープンキャンパスの開催等も一手段ではあるが、WEBを利用した、生の学内案内ができれば良いと思う。「他校では実績がある。」</p> <p>【回答】</p> <p>今年度までにTwitterやYoutube等の利用を行っている。いろいろ工夫して使いこなしていきたい。</p>

	<p>(3) 学生募集、入試、退学者など、コロナによる影響を教えてください。</p> <p>【回答】</p> <p>昨年度前半は非常事態宣言などで対面する募集活動をするができなくなりましたが、秋の入試シーズンにはほぼ影響なくイベントや入試を行うことができました。受験者の内、22~40 歳くらいまでの年齢層が例年よりも少なかった。退学者については例年よりも半減した。緊急事態宣言中の自宅待機期間のオンライン授業や各種連絡、個人面談などで担任と学生のコミュニケーションが密であったことが効果的であったかもしれない。</p>
<p>基準</p> <p>8</p>	<p>(1) 正しく運営されていると思います。</p> <p>【回答】</p> <p>引き続き適正に運営していきます。</p> <p>(2) この所の入学者の減少、設備投資で大変とは思いますが、頑張ってください。</p> <p>【回答】</p> <p>授業などになるべく影響のない範囲で経費削減を行っている。学生に影響が出ないよう配慮していく。</p> <p>(3) コロナ対策費用（自宅学習支援金等）は、どのくらいかかっているか？</p> <p>【回答】</p> <p>学生に一律 2 万円の給付金、オンライン授業に備えた通信環境の整備に 66 万円、消毒などの消耗品が 26 万円程度かかった。附属治療所・接骨院の感染対策としてサキユレーターなどは県の補助金などの利用もした。</p>
<p>基準</p> <p>9</p>	<p>(1) 適切と思います。</p> <p>【回答】</p> <p>今後もしっかりと対応していく。</p>
<p>基準</p> <p>10</p>	<p>(1) コロナ禍でボランティア活動が出来なかった事が、とても残念に思います。ボランティア活動を通して、現場での負傷者（負傷部位）を見聞する事が、生徒もモチベーションが上がるのでは？</p> <p>【回答】</p> <p>学校としてもボランティア活動でできなかったのは残念である。しばらくはイベントなどの実施状況や感染防止の観点からしばらく参加させることが難しいかもしれないが、チャンスがあれば広く参加を促したい。</p>

(2) (10-36-2) 諸外国の学校との連携をしないのは、どうしてですか？

【回答】

資金的、人材的に対応する事ができない。

(3) 会場貸し「輝良ッ都フェスティバル in 稲沢」での「マッサージ教室」の設営はよい企画であったと思う。今後もこうした活動の継続を希望する。また、「お灸教室」「小児はり教室」などの新企画も期待している。

【回答】

地域貢献としても貴重な場となるので今後も協力していきたい。

その他 (1) 新型コロナウイルス感染症による一年半の社会情勢の変化、学生に於いてもオンラインによる授業内容の変化が甚だしい昨今であります。学生のオンラインによる授業をする事により学生の健康管理に対して学校側はどのような健康管理の方法を考えていますか。

【回答】

専門学校に関してはあくまで対面授業が主となるという方針があることから、本校でもわずかな期間しかオンライン授業は行われなかった。長くて2週間程度であり、オンライン授業が原因とされる健康の不調は報告されていない。今後も対面授業が基本になると思われる。

(2) 授業はオンラインによる授業。あん摩マッサージ指圧・鍼・灸の実習はどのような方法で行っていますか。

【回答】

実技のオンライン授業に関しては、実施されたのが春先であり、多いクラスでも2回程度であったので、練習器具へ鍼を刺し、カメラ越しに確認しアドバイスする等の基礎的な授業内容であった。

(3) P1. 課題と解決方策 1 (退学者が半減した要因がコロナ？なぜ？)
2 (枠を超えた方策とは、具体的にどんな事？)

【回答】

学校協会の行ったアンケートなどにも出ているように、全国的な傾向として昨年度の退学者は減っている。理由としてはコミュニケーションの苦手な学生がオンライン授業の方が馴染みやすい傾向があったという事や、学校閉鎖やオンライン授業の準備などで教員とコミュニケーションを頻繁に取っていたという事が挙げられる。また、テスト期間に学校閉鎖せざるを得ない事態を想定し、授業の評価方法が例年と異なり、「テストの失敗」が少なかったことも関係するかもしれない。

先輩後輩の交流のなかで、学校での過ごし方や勉強内容などの助け合いが促進されて

いくので、それを促すためにボーリング大会などを企画した。残念ながらイベント日と緊急事態宣言が重なってしまい中止となってしまったが、今後も計画していきたいと考えている。